

私の読書日記

論語と日本語

酒井順子



エッセイスト

×月×日

論語で最も有名なのは、「子曰く、吾れ十有五にして学に志す」から始まる部分であろうかと思う。儒教国・日本の民は、四十歳になると、「不惑」と言うが、まだまだ惑い続けている……」

「不惑」と言うが、まだまだ惑い続けている……」  
など、急に論語を引き合いに出しがちなのだ。  
とはいえ、まだ寿命が短い大昔の話だから、今は四十で感づいてもいいでしょ？

……と思うのだが、孔子は七十四歳没とされ、意外と長生き。あの文章も「七十にして心の欲する所に従って、矩を踰えず」まで続く。  
そして私は「不惑か」と思っていたらあつたという間に年月が過ぎ去り、知命の年を迎えた。天命を知る

前に、他に知らないことが多すぎる自分。それも、知った気になっていて実は知らないことばかり。

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

一つの章ごとに、漢文、読み下し文、訳文、そして解説がセットとなっているので、わかりやすい。「子曰く」で始まる文が多いことはすなわち、弟子達が孔子の言葉を書き残したことになる。個性豊かな弟子達と孔子の会話も多く、これはコミュニティ

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

ニケーションの書でもある。そこから感じられるのは、論語は人間が残した言葉である、ということ。孔子というと、ほとんど神がかった存在のように思えるが、論語は全て、目に見える世界を語ったもの。魯の国に生まれ、やがて権力者とおつかって諸国を巡った苦勞人・孔子が、様々な経験の中で培った言葉なのだ。

だからこそ論語は今に通じるわけだが、忠孝や男女の差がここで厳しく語られるわけではない。我々が儒教と聞いた時に思い浮かべる特徴は、孔子の死後、弟子達によってつくられた部分が多いのだそう。

身近に感じられることが記される論語だが、中でも私が「あるある」と思いつ

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

出書房新社 2600円+税)に憲法が載っていたので、読んでみる。

池澤夏樹個人編集の日本文学全集の中で、本書は異彩を放つと同時に、最も編者の個性を表した巻でもある。祝詞の現代語訳から始まり、中国からきた漢詩・漢文、仏教、キリスト教の文章、琉球語、アイヌ語の文章……と続く。多様な根と養分を持つて育ってきたのが、日本の言葉。

さらには「五十音」、現代語……ときたところで、「政治の言葉」として、明治時代に制定された「大日本帝国憲法」が示された。

第一章の第一条は、「大日本帝国八万世一系ノ天皇ヲ統治ス」。

天皇の存在感が重く示された後にあるのは、「終戦の詔書」である。一人称が「朕」のこの文章、たいそうわかりにくいのが、高橋源一郎による現代語訳は、昭和天皇が確かに人であったことを、私達に示す。

さらに、敗戦後に制定された「日本国憲法」の前文と、池澤夏樹によるその現

代語訳は、天皇が人になった後、主権が国民のものになったことを表す。

これら「政治の言葉」の後にある鶴見俊輔「言葉の守りの使用法について」が面白い。「社会の権力者によって正統と認められている価値体系を代表する言葉を、特に自分の社会的・政治的立場をまもるために、自分の上にかぶせたり、自分のする仕事の上にかぶせたり」というのが、「お守り的な言葉」。意味もよくわからずに使われる難解な言葉、すなわち歴史を振り返れば「国体」「八紘一宇」「翼賛」などがそれにあたる。

時代ごとに「お守りの言葉」は登場しては消えているのだから、今となっては「そのままでもいい」とか「強くなりたいたい」といったJ・POP的慣用語も、一種のお守りの言葉なのか

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

も。意味がよくわからないながらも、人をうっとりさせる力を持つのが、お守りの言語なのだ。

最後の章「日本語の性格」には、永川玲二、大野晋、中井久夫の日本語についての論考がおさめられる。あまりにも身近にすぎないため、今までの「性格」を改めて考えたことがなかった、日本語という我がパーソナリティー。しかしこうして腑分けされると、八方美人で不器用で、でも美しくて努力家で……と、日本語の様々な側面が浮かび上がる。

駄目なところもある、しかしだからこそ愛しい相手である日本語。本書を読み終わったら、無性に文章が書きたくなった。

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

つ読んだのは、君子と小人を対比する文の数々。君子は「立派な人」、小人は字の如く「小さい奴」であるわけだ。「子曰く、君子は和して同せず。小人は同じて和せず」との言葉を読み、「むう」となった。

「君子は人と調和するが、みだりに同調しない」、しかし小人はその逆……というところで、小人の姿が自分にびったり重なるではないか。人の輪の中で浮かないためにうなずきまくっているけれど本当は賛同など

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

はなれまい。しかし今、日本に住む外国人は増えている。日本語を母語としない人たちが、日本社会の中で居場所を見つけていくためには「やさしい日本語」が必要、と提唱するのが「やさしい日本語」(庵功雄 岩波新書 840円+税)。

「やさしい日本語」という観点が登場したのは、阪神・淡路大震災の時。必要な情報を手に入れられなかった外国人が多かったことから、社会言語学者やNHKアナウンサー達により「やさしい日本語」が研究されていった。

それは、子供に話すようなやり方ではない。敬語や漢語的表現(お守りの言語のような!)を取り除き、シンプルな語彙で整理する等、一定の原則に基づいた日本語がつくられていったのだ。NHKでは既に、やさしい日本語で記されたウェブニュースも提供しているのだそう。

外国にルーツを持つ子供達は日本の義務教育の対象でなく(外国籍の場合、都

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

していない、ということがしばしばの私。他人に同調することが「和」と「同じ」って違うんだ……、と。

同じアジア人の言葉だからこそ、聖書などより「あるある」感が高まる論語。耳順の年までもあつたという間とは思いますが、和して同ぜず、を目指してみたい……。

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

内では高校進学率が三〇%程度らしいという事を、本書によって初めて知った。今後も日本で生きていく彼等が教育を受けられないことは、彼等にとっても日本にとっても、良いことではないわけで、やさしい日本語の必要性は、今後も高まるだろう。

また、日本語を母語とする者にとつて日本語は母語ではないという事も、私は知らなかった。ろう者や知的障害者にとつても、やさしい日本語はまた有効なのだ。

大日本帝国憲法↓日本国憲法という流れを見てもわかるが、かつては知識人だけのものではなかった日本語、特に文語は、時を経て普通の人のものとなってきた。そして多文化共生社会へ変わろうとする今、もう一段階「易し」くて「優し」い日本語が、登場しようとしている。外国人観光客が増加し、東京オリンピックもあるという状況で、様々なレベルの日本語に

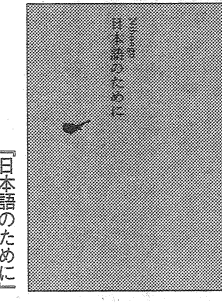
……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

……というところで、知った気になっていないもの一つを知るべく、『完訳 論語』(井波律子訳 岩波書店 2800円+税)を手にとった。「とにかく忠孝！ 男女は席を同じうせず！」という何となくの儒教イメージしか持たない中で、初めての論語体験である。

さかいじゅんこ 1966年東京生まれ。高校時代からエッセイストとして活躍。新刊に『朝からスキャンダル』(講談社)、『字を書く女』(芸術新聞社)、『子の無い人生』(KADOKAWA)など。

『私の読書日記』は、酒井順子、鹿島茂、立花隆、池澤夏樹、穂村弘の五氏が毎週交代で執筆いたします。



「日本語のために」